

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)		都市型ホテル (営業)	来客数の動き	・宿泊・宴会共に好調で、前年実績を上回っており、順調に推移している。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・東京オリンピック、パラリンピック関連の動きが大きい。
		百貨店(役員)	販売量の動き	・お歳暮やクリスマス等の年末需要が上向いている。
		百貨店(店長)	販売量の動き	・今月下旬にフロアのリフレッシュ工事が終わり、クリスマス商戦に合わせて来客数が5%程度増加している。それに伴って、販売点数、単価共に上昇している。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・日常の買物に加えて、クリスマス等のプレゼントやイベント等で使用する商材で、高単価の物が購入されたことで、来客数は増えていないが買上単価が上昇し、少し上向きになっている。
		住関連専門店(店長)	販売量の動き	・災害復興需要が続いており、被災して破損した物品の購入が多いと考えられる。
		一般レストラン [居酒屋](経営者)	来客数の動き	・忘年会シーズンということもあり、動きは良い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・一時的ではあるが、今月は忘年会で週末は動いた。平日の夜は、余り変わらず動きが良くない。地方でも、例に漏れず「忘年会スルー」がかなりあるようである。以前は、タクシーチケットが出ていたが、今はなくなり、1次会だけで電車での帰るため、タクシー利用も最寄り駅までが多い。
		ゴルフ場(総務担当)	来客数の動き	・価格を下げた面もあるが、前年同月に比べて来客数が増えている。
		設計事務所(所長)	競争相手の様子	・飽くまでも当社のケースではあるが、12月に指名入札が相次ぎ、公共工事の発注があることで、売上が安定している。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・キャッシュレス決済でポイントが還元されることを知らない客が多くみられる。消費税増税後の景気は落ち込んだままで、来客数や客単価をみても回復の兆しは全くない。
		一般小売店[精肉](経営者)	お客様の様子	・年末になっても、人の動きは余り良くない。毎日出るスーパーのチラシも、余り効果は出ていないようである。客は必要な品だけを選んでおり、余分な物の購入は控えている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・消費税増税から約3か月が経過し、直後の落ち込みと比較すると徐々にではあるが、回復傾向にある。ただし、依然として厳しい状況に変わりはない。来店促進策を講じているが、予想以上に苦戦を強いられている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・3か月前と比べて店全体では大きな変化は見られない。特に、今月の売上の比重が高いお歳暮商戦は、前年をやや下回る結果となっている。
		スーパー(商品部担当)	来客数の動き	・売上、来客数共に前年並みの推移だが、販促やポイント還元などイベント時の集客が伸びず、トータルでは変化がない。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・売上は前年比96.6%、来客数98.9%、客単価97%で推移しており、全体的に前年割れで微減である。弁当等、日配品は99.6%とほぼ前年並みなので、菓子、雑貨等が落ちたとみている。増税分の落ち込みは落ち着いたのではないかと。
		衣料品専門店(販売担当)	来客数の動き	・ミドル世代以降の客相手の商材を扱っているが、客の購買、消費行動が、かなり鈍さを増している。そこへきて、今後に期待ができるかという次の世代も、ターゲットに成りえるゾーンはほとんどないという状況で推移している。これが続けば、かなり衝撃的な状況に陥るのではないかと気がしている。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・来客数はあるものの、消費税増税後のため、高単価商材の動きが鈍い。
	乗用車販売店(販売担当)	販売量の動き	・販売量は中古車、新車、車検の入庫台数いずれも、3か月前とさほど変わっていない。ある程度、高水準で推移しているので、やや良くなっている。	

自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・今までの流れからみて、物を買う際に時間が掛かり過ぎている。どの車を買う場合でも、盛り上がりせず、何を買いたい、という話が余り出てこない。消費税増税後、余計にそのような傾向がある。
その他専門店 〔燃料〕（従業員）	来客数の動き	・受注状況に変わりはない。
一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・忘年会シーズンを迎え、宴席予約は入っているが、消費税増税分単価が下がっている。しかし件数は前年並みかやや多い。上向きとも下向きともいえない。
その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	お客様の様子	・2020年4月新年度スタートの入札案件は、例年並みの見通しである。むしろ、人材確保が重しとなっており、人材の採用、定着、育成が課題である。
タクシー（経営者）	お客様の様子	・夜の動きは良くないが、昼の動きが良かったので、消費税増税分2%を含めて、前年同月比8%の増収である。
通信会社（経営者）	販売量の動き	・地方の景気は低迷を続けたまま年末を迎え、冷え込みが解消する兆しは皆無である。
通信会社（経営者）	お客様の様子	・スマートフォンやタブレット等の普及により、若年層を中心に、テレビを見ない世帯が増えたため、テレビ視聴加入者が伸びない。インターネット契約は飽和状態で、こちらも伸びない。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・例年と比べて、年末の入居案件数が少ない。
通信会社（局長）	お客様の様子	・消費者動向に大きな変化はないが、高齢者を中心に長期売掛金が発生する傾向にある。また、企業は業種によって好不調の差が開いている。
競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購買単価共に、ほぼ変化がみられない。
設計事務所（所長）	お客様の様子	・客の予算等が変わらないため。
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・売り物件も買い物件も動きが鈍く、3か月前と変わらない。
住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・事務所系の貸店舗には引き合いがほとんどないが、飲食店舗系では、引き合いが多少増えてきている。特に、夜の商売のスナック、居酒屋等への引き合いが多い。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・毎年、クリスマス、年末は売上が厳しい。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・当地は台風15、19号の被害を受け、忘新年会のキャンセル等が3割くらいあったと聞いている。コンビニにとってはそれほど災害の影響は感じないが、街全体の景気は下向きになってきていると、客の動きや周りの動きで感じている。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・客の来店頻度や買上額が、若干減少している。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響なのか、10～12月にわたり、新車、中古車等の販売が低迷している。客の購買意欲が感じられない。
住関連専門店（仕入担当）	単価の動き	・来客数は前年と比べても変わらないものの、客単価が低下している。冬物の動きも暖冬傾向でマイナスである。
その他専門店 〔靴小売業〕（経営者）	販売量の動き	・年末に向けての販売だが、何といっても天候に左右される。降雪の便りを聞かないと売れないため、前年以来冬商戦は厳しい状況である。また、キャッシュレス還元5%のお得感も少し薄れてきたように感じる。品質が良い物でお得感がある物は、多少売れている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・週末は忘年会などが入っているものの、平日は節約しているのか動きが鈍く、売上は9月頃と同じかやや悪いくらいである。また、クリスマスが平日で動きが鈍かったので、前年の12月より悪い。
スナック（経営者）	来客数の動き	・平日の来客数が激減している。年末12月がもっと忙しいかと思っただ、思ったほどの客入りが無い。

	観光型ホテル (経営者)	単価の動き	・消費税増税により、販売額総額が高くなったと感じる客が予想よりも多く、ある程度の価格の調整が必要な状態である。結局、消費総額は増えず、「円込みでお願い」と官民双方の客に依頼されれば、立場の弱い我々は、2%分以上を負担しなければならないのが現実である。軽減税率も電子マネーやキャッシュレス決済の消費者還元事業も分かりづらい。総合すると消費は冷え込んでいる。
	都市型ホテル (営業担当)	販売量の動き	・12月の動きだが、例年と比べて、運営する3ホテルは軒並み70%は超える稼働率で、悪いところはない。ただし、80%を超えても良い月なので、年末に近くなって稼働が苦戦しているため、若干悪い。
	都市型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・12月は団体客の需要も少なく、新規オープンの競合店の影響などもあり、インターネット経由の個人客のキャンセルが目立った月である。宴会も、人数の減少が顕著だが、消費税増税による単価上昇も少なからず影響しているかもしれない。
	旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・年明けの予約が減っており、やや悪くなっている。
	旅行代理店(所長)	来客数の動き	・株価の上昇や日中関係の好転など、耳ざわりの良いニュースは聞こえてくるものの、観光面でその恩恵を受けるにはまだ遠い感じがする。加えて、暖冬による雪不足なども想定され、スキー需要も懸念される。
	タクシー(役員)	お客様の様子	・労働者不足でやや悪くなっている。
	通信会社(総務担当)	販売量の動き	・前年同月より3割ほど落ち込んでいる。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・今年から12月の天皇誕生日の祝日がなくなったことから、クリスマス時期の祝日効果がなく、この時期の入園者数が大幅に減少している。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・地方経済はいまだに、先の見えないトンネルを抜け出せずにいる。来年は緊縮財政が更に強まり、行政からの補助金も一律20%カットで、市民マラソン大会、祭りの中止が決定している。
	× その他サービス [自動車整備業](経営者)	販売量の動き	・台風19号の被害、消費税増税等、世間では不況感が重く、整備売上も毎月減収減益で、前年比マイナス5%を記録している。新車、中古車の販売量が微増したが、利益率圧縮で、純利益は2%と振るわない。
企業 動向 関連 (北関東)	-	-	-
	窯業・土石製品 製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・早出出勤をしたり、残業時間が増加している。
	一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・3月の期末納期案件が、業種を問わず増加してきている。
	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・自動車の北米販売が前年同月を超え100.2%となっているものの、国内販売は前年比77%と低水準である。消費税増税の影響だろうか。
	化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量、生産量共に前年並みの推移となっているが、関連商材の落ち込みがあるため、どちらともいえない。
	輸送用機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・得意先が13社ほどあるが、受注量、販売量の動き、取引先の様子は、非常に悪いところ、良いところ、普通のところと様々で、余り変わらない。
	建設業(開発担当)	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。現政権誕生後、公共工事は順調に推移している。いつも言っているが、業界としては大変有難く感謝している。現政権も最長の長期政権であり、日本経済の安定に寄与している。今期、公共工事は前年比9%増で推移している。ただ、現在の公共工事は総合評価方式になっているので、地方でも大半は、大手の数社が受注してしまい、中小建設業者は受注することが難しい。当社は何とか前年比10%増の受注があり、今のところ一安心である。
	輸送業(営業担当)	取引先の様子	・今月は冬物暖房器具、電気カーペット、こたつ、初売り商材等の輸送の高稼働時期である。また、オープンレンジ等の家電輸送も順調に多く、ドライバー不足による車両不足で、手配に苦慮している。しかし、全体的には前年並みの輸送である。

	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末に向け、入退居が減っている。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・消費税率上げの影響はそれほど目立たず、個人消費も特別大きな変化のないなかで、例年並みの年末の消費状況がみられる。なお、企業の設備投資も特段大きな変化はみられない。引き続き、一部の下請製造業や建設業などでは、受注が堅調である。	
	社会保険労務士	取引先の様子	・輸出関連の事業所は低調なままで、特段、回復の兆しはない。	
	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・特段の変化は見られない。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後当初は、セールやポイント還元などの効果で、余り景気への悪影響を感じなかった。12月に入り、少しずつ実質的な値上げを感じ始めている。	
	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月の売上は3000万円を超えたが、11月以降はそれ以下である。ただし、12月は月半ばから注文が増えている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・12月から急激に失速している。今年の予想は親会社いわく、「前年の3割減」というちょっと厳しい状況になっている。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・仕事はあっても、下請企業や人手不足で受注することができない現状である。	
	不動産業（管理担当）	取引先の様子	・取引先も余裕がないようで、今まで定期的に行ってきた維持管理業務を減らしたいという話が、あちこちから聞かれる。実質、今月分も中止や延期になったところが多く、売上、利益共に減少予定である。	
	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・自動車販売会社や住宅会社の売上が落ちている影響で、広告宣伝予算が削減傾向にある。特に、印刷物の取り止め、部数削減、仕様のサイズダウンなどが見られる。	
	x	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の生産動向が、引き続き停滞している。取引先から固定電話システムの販売に伸びがないと聞いている。
雇用 関連 (北関東)	-	-	-	
	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・クリスマス商戦、年末年始に向けた正月用品なども含めて、食品関係の製造に関わる人材募集は多い。住宅関連も、年末に向けて追い込みがあるので、人員の追加募集がある。製造業は目立つ動きがないが、今後は野菜やガソリン価格の高騰等が予測されるので、多少募集に動きが出てくると思われる。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数の直近3か月を比べてみても、余り変化はない。前年同期と比べると5.4%減となっているが、前年は管内事業所の製造ラインが海外へ移転した関係で、大量の派遣求人があったためとみている。	
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・製造業を中心に、取引先からの受注が停滞していることなどから、派遣を更新しない企業が、依然として見受けられる。	
	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・仕事は忙しいものの、働く人が少なく、仕事がうまく回らない。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年同時期と比較して、オフィス系派遣求人が減少している。	
	人材派遣会社（管理担当）	求職者数の動き	・求人募集をしても人材が集まらない。派遣会社として求人のシステム化が必要だと感じているが、費用が掛かるのすぐには対応できない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、小売、卸売業からの求人申込みが減少している。	
x	-	-	-	